

Ⅲ. 「基準」ごとの自己評価

基準 1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

1-1. 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。

《1-1の視点》

1-1-① 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されているか。

(1) 1-1の事実の説明（現状）

本学は、低迷する新潟県内の大学進学率（平成 5(1993)年 4 月時点で全国都道府県の中で下位から数えて 2 位であった。）を向上し教育環境を改善する目的で、新潟県、新潟市をはじめとする地元市町村、新潟市民、新潟県内外の経済界の支援を受けて平成 6(1994)年 4 月に開学した。1 学部 2 学科の小規模な私立大学ではあるが、地域全体の公共的意思に支えられて設立された大学である。

「国際化・情報化時代の到来を迎え、新潟県、新潟市が環日本海諸国との交流と歴史の中で培ってきた地理的・文化的特殊性を生かしながら、日本海側の中枢地域、中枢都市として発展していくことに貢献するため、国際化・情報化に対応できる人材及び地域文化の向上に寄与する人材の育成を目的として設置する。」とした設置理念、建学の精神を踏まえ、「情報社会を先導し、国・地域・人間の文化を尊重しつつ、国や地域を越えて、人類の福祉向上に貢献する。」を大学の基本理念とした。地域と共に歩み、時代の要請に対応し、新しい歴史を創造することを基本姿勢としている。

この基本理念は、平成 6(1994)年 5 月、当時の本学学長と情報文化学部長によって本学研究報告 NUIS レポート第 1 号「新潟国際情報大学--設立の理念と教育の特色--」にまとめられ、設立時に教育界や実務界など多方面から集まった教職員に周知され、本学の使命の共通認識が形成された。（開学当時、研究紀要がまだ発刊されていなかったため、NUIS レポートにまとめられた。）

開学時からしばらくは、大学案内には上記の基本理念がそのまま掲載され、学外へも周知されてきた。しかし、世の中の国際化と情報化の急速な進展に伴い、学際領域である「情報文化」、「情報システム」という言葉の意味を正しく理解してもらう必要から、本学の理念と教育目標がより明確になるように、従来の表現に下記の具体的な表現を付け加えた「建学の理念」を現在は大学案内に掲載している。

「今、人類は国境や地域、そこに根づいた文化の違いを大切にしながらも、よりグローバルな価値観のもとに情報ネットワークを形成しつつある。そのつながりを人類の共存・共生のための真の絆とするために、新潟国際情報大学は開学された。日本文化と異文化との違いを理解し、国や地域を越えて情報文化に貢献できる人材を育成する。情報社会を先導し、国・地域・人間の文化を尊重しつつ、国や地域を越えて人類の福祉向上に貢献する。」

また、本学の HP（ホームページ）にも同一内容の大学の基本理念を掲載して学内外への周知を図っている。「新潟国際情報大学の現状と課題」平成 14(2002)年度自己点検・評価報告書（平成 15(2003)年 3 月）及び本学 10 年史（平成 16(2004)年 3 月）においても、建学の精神・大学の基本理念を掲載している

(2) 1-1の自己評価

建学の精神・大学の理念は、不動のものとして学内外の周知は必要であるが、独善的になってはいけない。特に、学外においては具体的に理解されていることが大切である。本学に入学を希望する高校生、送り出す高校、父母に向けて正しいメッセージを送る努力が不可欠であると考えて、大学案内の見直しを重視してきたのは評価できる。

一方、具体化した内容のみを重視し続けると、元来の基本理念から次第にずれてしまう問題もある。特に、学内では当初基本理念を明記した報告書を発行することで基本理念の徹底がはかられたが、開学以降 13 年が過ぎ、教職員の入れ替えが進んだ今日、学内への基本理念の周知に若干の不十分さが見受けられる。

(3) 1-1の改善・向上方策（将来計画）

大学案内、本学 HP 上の広報については、現状を維持しつつ更なる充実を図る。在学生、教職員へは「学生便覧」や学報「国際・情報」の見直しを進めるとともに、年度初めの学年別履修ガイダンス等を通じてその周知を図る。

また、高校生へ向けてもオープンキャンパスや大学説明会、教職員による高校訪問、総合学習を利用した大学見学会などの機会を活かして、本学の建学の精神や理念を正しく理解してもらえるよう広報内容を更に工夫していく。

1-2. 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

《1-2の視点》

- 1-2-① 建学の精神・大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が明確に定められているか。
- 1-2-② 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。
- 1-2-③ 大学の使命・目的が学内外に公表されているか。

(1) 1-2の事実の説明（現状）

大学の建学の精神・基本理念を踏まえた大学の使命・目的は、「日本文化の理解の上に立ち、国際的視野のもと、情報文化の発展に貢献できる有為の人材たらしめる意欲あふれる青年を教育し、健全な心身を持つ、個性豊かな人間形成に資するを使命とする。」である。その使命・目的のもと、「世界文化としてのその情報文化の意味を理解し、その創造と発展に貢献することのできる人材を育成する。」を目標とした情報文化学部が設置され、この世界文化としての情報文化を創造するために2つの学科、情報文化学科と情報システム学科が置かれた。

情報文化学科は、地域に根ざし、国際化時代に適応した人材の育成を目的とする。具体的には、北東アジア（ロシア、中国、韓国・朝鮮）やアメリカを含むアジア太平洋地域をはじめとする世界への理解を深めて、日本文化と異文化に対する正しい評価を身につけるとともに、国際社会の諸問題や地球的問題群への認識をもって、積極的に国際社会に参加できる人材を養成する。

情報システム学科は、情報文化についての認識を備えた上で、情報技術を駆使し新たな社会の仕組み、すなわち社会的なシステムとしての情報システムを突き詰めていく。そのために情報システムの企画・設計・開発・運用に携わり、あるいはそれを活用することを通じて、ありうるべき情報社会の建設に貢献できる人材を育成することを目的とする。

このように、大学の理念を踏まえた使命・目的に沿った明確な教育目標をもつ学部・学科が設置されている。換言すれば、建学の精神・大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が明確に定められていることになる。

この大学の使命・目的は、新潟国際情報大学学則第2条（目的）に明記して学内外に公表している。また、同様の内容を本学HPにも掲載して公表している。

ただし、大学が掲げる基本理念や使命・目的などは、従来の表現では学外の人、特に高校生には理解が容易ではない。したがって、大学案内やHPでは本学の理念や使命・目的を正しく理解してもらうために、国際化・情報化が急速に進展する今日の情報社会の中で、本学の目指すところをより具体的に解説して掲載している。

入学式の学長告辞や入学時ガイダンスにおいても、分かりやすい内容で本学の使命・目的の主旨が学生に口頭で伝達されるだけでなく、学報「国際・情報」に入学式の学長告辞を掲載して学生及び教職員全員に配布している。

また、1-1で述べた、本学研究報告 NUIS レポート第1号「新潟国際情報大学--設立の理念と教育の特色--」、「新潟国際情報大学の現状と課題」平成14(2002)年度自己点検・評価報告書（平成15(2003)年3月）及び本学10年史（平成16(2004)年3月）にも大学の基本理念に関連して本学の使命・目的を明記し、教職員をはじめ学内外に周知している。

(2) 1-2の自己評価

1-1と同様に、学外においては学部、学科の教育目的が具体的に理解されていることが大切であり、入学を希望する高校生や父母に向けて正しく理解してもらえる努力が不可欠である。この観点から、毎年入学時に新入生にアンケート調査を実施し、その結果を大学案内などの内容に反映している。また、卒業時にもアンケート調査を実施して、教育目標に沿った教育ができているかを評価し、教育課程の見直しに役立てている。更に、卒業生が就職した企業へのアンケート調査も実施し、社会ニーズから見た本学の教育目標の妥当性を評価している。

(3) 1-2の改善・向上方策（将来計画）

本学では、学生のためのキャリア開発プログラムが整備されており、1年次に行われるキャリア開発ガイダンス、2~3年次授業のキャリア開発1、2、及び3年次のインターシップ、学外実習の事前ガイダンス（説明会）を活用して、進路指導に加えて本学の使命・目的についても認識を深めてもらうよう工夫する。一方、大学の使命・目的が的確に学内外に周知されているかを判断するために、今後とも各種のアンケート調査の実施を継続し、学部及び学科の教育目的が明確に理解されているかの評価を行っていく。また、大学案内、HP、学生便覧、学報「国際・情報」などの内容を更に充実させ、高校生や父母を含めた学外者により理解されやすいように広報を工夫する。

〔基準1の自己評価〕

本学は、新潟県内の高校生の大学への進学率の向上、国際化・情報化時代への対応、環日本海（アジア）時代の到来など、教育環境の改善や時代が求める人材の育成を目的に、県民の強い要請を受けて、新潟県、地元市町村、経済界の多大な支援により設立された大学であり、当初より行政、マスメディア及び本学独自の大学案内などにより、建学の精神や大学の理念は学内外に広く示されてきたと評価できる。

開学以降13年経過した今日も、大学案内、HP等で大学の理念、目的を示しているが、従来の言葉や表現方法では高校生や父母には理解し難くなっており、より具体的な表現を加えて示している。

また、教職員の中で開学当初からの者は本学の精神や理念を熟知しているが、その後の採用者に対しては、規程や学則によって周知しているものの徹底には若干不十分かと思われる。

〔基準1の改善・向上方策（将来計画）〕

建学の精神、大学の理念、目的・使命は大学の基本であり、今後も積極的に学内外に周知しなければならない。手段としては、これまでどおり大学案内、HP、学報「国際・情報」、学生便覧などが主となるが、唯我独尊とならないよう、時代の変化に合わせて高校生や父母に理解されやすい言葉や表現を用いて、より具体的に示すよう工夫する。

また、学生アンケート調査の結果をふまえ、キャリア開発ガイダンスなどを通じて在学生にも精神や理念及び目的・使命について理解を深めるよう努める。